

第6回宮城マスター検定1級試験解答と解説

番号	正解	解説
問1	4 政宗が育んだ“伊達”な文化	日本遺産とは、地域の歴史的の魅力や特色を通じて、我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するものです。県内から今回認定されたストーリー「政宗が育んだ“伊達な”文化」は、時代を代表する文化人でもあった仙台藩祖伊達政宗が築いた、豪華絢爛で粋な斬新さに加え、国際性も併せ持つ“伊達な”文化を、50の文化財や史跡、工芸品などを関連付けて紹介するものです。
問2	2 メカジキ	気仙沼市はメカジキの水揚げが日本一です。ハモニカはメカジキの背びれの付け根部分を使った料理で、外見が楽器のハーモニカのように見えることから名付けられました。
問3	3 小室 達	小室達は、柴田町槻木入間田の出身の彫刻家です。東京美術学校(現・東京芸術大学)彫刻科塑造部を首席で卒業し、帝国美術院展覧会では無鑑査となるなど極めて高い評価を受けました。伊達政宗騎馬像は、昭和8年に宮城県青年団から依頼され、政宗の300回忌にあたる昭和10年に仙台城跡に設置されましたが、太平洋戦争中、金属類回収令に基づき供出されています。現在の騎馬像は柴田町に残っていた石膏原型を基に昭和39年に再建されたものです。
問4	3 茂洋じいちゃん	牛政宗は控え目で照れ屋な性格で、趣味は宮城の豊かな自然の中でポーッとすること、色々な場所に出かけて全国和牛能力共進会宮城大会や県産和牛をPRしています。
問5	4 石巻あゆみ野駅	JR仙石線の新駅誕生は、平成16年の小鶴新田駅以来12年ぶりです。石巻あゆみ野駅の名称には、新生活や未来への歩みなど復興への思いが込められています。
問6	1 小原温泉	白石川上流の渓谷に面した小原温泉は、800年もの歴史を重ねており、地元では「目に小原」と親しまれています。小原温泉の西側には、名勝地の「碧玉溪」もあり、自然を満喫することができます。
問7	1 ワカメ類	平成25年の養殖水産物の県内生産量は、ワカメ類が全国2位、ホタテガイ3位、カキ類3位でした。震災以降生産量が落ち込んでいたカキですが、徐々に回復しており、平成26年の生産量は2位となっています。
問8	1 チョウザメ	同地で開業している温泉宿泊施設が平成12年頃からチョウザメの養殖を始めました。岩手・宮城内陸地震、東日本大震災と2度の大きな地震で被害を受けましたが、現在は養殖数も回復し、チョウザメ料理やキャビア料理が味わうことができます。
問9	2 仙台あおば餃子	「仙台あおば餃子」は、平成21年に農業の振興及び地域経済の活性化を目的に、仙台市内で生産された農産物を使った開発商品として誕生し、平成22年5月の仙台・青葉まつりでデビューしました。現在、仙台市内約40店舗の飲食店等で提供されています。
問10	3 九曜紋	伊達家は8つの家紋を持っており、戦国武将のなかでも家紋の数が多いといわれています。サン・ファン・パウティスタ号の船尾に飾られている九曜紋は、細川氏に所望し、用いられた家紋といわれています。
問11	2 多賀城高校	東日本大震災から学んだ教訓を確実に次世代に伝承するとともに、将来国内外で発生する災害から一人でも多くの命と暮らしを守ることができる人材を育成するため創設されました。全国では兵庫県立舞子高校環境防災科に次いで2例目です。
問12	3 バイオガス施設	バイオガス施設「南三陸BIO」は、町の住宅や店舗から排出される生ごみや、し尿汚泥など、有機系廃棄物を発酵処理し、バイオガスと液体肥料を生成する施設です。バイオガスは施設内の発電等に用い、液体肥料は農地で利用します。
問13	4 川股 松太郎	旧金成町(現栗原市)出身の酒井篤礼は洗礼を受けた後、仮聖堂が破壊されるなどの迫害にあいながらも布教を続けました。現在の金成ハリストス正教会は、篤礼の甥の川股松太郎により自宅の敷地に建てられました。

問14	1	ウミネコ	JR女川駅は、新しいまちのシンボルとして、新駅舎と日帰り温泉施設「ゆぼっぼ」が一体となった施設で、女川の町鳥であるウミネコが羽ばたく様子をイメージした曲線を描く大屋根が特徴です。1階が改札口、2階がゆぼっぼ、3階が展望フロアになっています。
問15	3	ゑびや旅館	ゑびや旅館は明治初期に建設され、明治9年の明治天皇東北巡幸の際には、大隈重信らが宿泊したこともある3階建ての旅館です。船底をかたどった「船底天井」の部屋のほか、天井一面に桜が描かれた「桜の間」、「松」「竹」「梅」の間には、その素材を生かした天井など、意匠を凝らした建築物となっています。1階部分はカフェ「はれま」として交流の場となっています。
問16	1	kesemo	「気仙沼水産資源活用研究会」は、気仙沼市の豊かな水産資源を活用し、機能性食品や化成品、美容品などの高付加価値事業を創出し、さらには新たな産業・雇用の創造を目指す目的のもと発足しました。ブランド名である「kesemo」には「気仙沼から、もっと」という思いが込められています。
問17	4	塩	父のために何か良い食餌療法はないかと模索していたところ、旅の僧から油を使わない麺の製法を聞き、作ってあげたと伝えられています。味もさることながら、この麺の誕生秘話に感銘を受けた片倉小十郎は、「人を思いやる温かい心を持つ麺」という意味を込め、「温麺」と名付けたといわれています。
問18	3	潟沼	大崎市にある潟沼は強酸性のカルデラ湖で、天気によってはエメラルドグリーンなどさまざまな色に変化します。 【その他選択肢】 1. 栗駒山昭和湖:岩手県にある火山湖 2. 荒雄湖:鳴子ダムによってできた人造湖 4. 平筒沼:ヘラ鮎釣りの名所として知られる沼
問19	4	寶華殿	愛姫は征夷大將軍の坂上田村麻呂の子孫ともいわれている三春城主・田村清顕の一人娘です。「陽徳院御霊屋(寶華殿)」は万治3年(1660年)に孫の綱宗によって造営されました。平成18年から3年かけて創建当初の豪華絢爛な姿に復元されています。
問20	2	約16メートル	唐桑半島東岸の巨釜半造は三陸復興国立公園を代表する景勝地の一つです。大理石の石柱「折石」をはじめ「トンネル岩」や「潮吹岩」など奇岩怪岩が連続しています。
問21	4	蕪栗沼	蕪栗沼・周辺水田は、マガン、オオヒシクイ、オオハクチョウ及びカモ類の越冬地として全国でも最大級の規模を持ちます。このほか県内では、伊豆沼・内沼(昭和60年)、化女沼(平成20年)がラムサール条約に登録されています。
問22	2	煙雲館	煙雲館は、代々伊達家の御一家筆頭であった鮎貝家の居館で、国文学者であり歌人の落合直文の生家です。県内でも有数の美しい庭園は、江戸初期に作庭されました。
問23	4	元禄潜穴	かつての品井沼は、周囲が16.5キロメートル、面積が約1,800ヘクタール(東京ドーム385個分)ありました。元禄潜穴は、今から約310年前の元禄時代に、米を増産しようとした仙台藩が、この品井沼を干拓するために掘った排水路のうち、潜穴(トンネル)部分のことをいいます。延長は約2,600メートルありましたが、その高低差はわずか1.6メートルしかなく、ほとんどが人力による工事は困難を極めたようです。
問24	4	赤痢菌	志賀潔は、北里柴三郎が所長をしていた伝染病研究所に入り、当時大流行していた赤痢の原因菌の研究に取り組み、苦労の末、世界で初めて「赤痢菌」を発見しました。赤痢菌の学名「Shigella」は志賀の名前に由来しています。
問25	1	みやぎ水産の日	「みやぎ水産の日」は、宮城のおいしい水産物や水産加工品を県民の皆様にもっともっと知ってもらい、食べてもらうために、平成26年11月に県が制定しました。水曜日の「すい」と第3の「さん」という読み方にちなんで、毎月第3水曜日としています。「みやぎ水産の日」では、県内のスーパーマーケット等の量販店でのイベントや雑誌でのPRを実施しています。

問26	4	間違っているものはない	すべて合っています。 愛宕山公園:6月上旬に約1万株のシャクヤクが園内を彩ります。 みやぎ蔵王えぼしリゾート:4月下旬~5月中旬にすいせん祭りが開催されます。 日和山公園:5月頃に10種類約450株のツツジが園内を彩ります。 阿武隈川右岸河川敷:4月下旬~5月上旬にかくだ菜の花祭りが開催されます。
問27	3	七ヶ浜町	「ボッケ(ケムシカジカ)」は七ヶ浜町の名物で、近海に生息し、毎年10月中旬から11月中旬にかけて多く収穫される魚です。地元以外ではなかなかお目にかかれなく、見た目はゴツくても、白身で淡泊な風味は煮付けや鍋物として好まれ、新鮮なものは刺し身や肝あえでも美味。「ボッケと収穫祭」では、ボッケの直売会やボッケ鍋の試食をはじめ、収穫の秋・食欲の秋ならではのイベントが盛りだくさんです。
問28	3	今野家住宅	今野家は江戸時代に肝入(村の責任者)を代々つとめていました。現在東北歴史博物館にある建物は石巻市北上町橋浦から移築したものです。
問29	4	春つけ井	「南三陸キラキラ井」は、季節毎に具材と名称が変わります。春は「キラキラ春つけ井」、夏は「キラキラうに井」、秋は「キラキラ秋旨井」、冬は「キラキラいくら井」として提供されます。
問30	2	米川の水かぶり	国指定重要無形民俗文化財「米川の水かぶり」は、登米市東和町米川に古くから伝わる火伏せ行事で毎年2月の初午の日に開催されます。米川五日町の男達が顔にかまどの煤を塗り薫で作った装束を身につけ神の使いに化身し、桶の水を家々に掛けながら町中を南から北に走り抜けます。人々は男達から薫を抜き取り家の屋根等にかけて火伏せのお守りにします。
問31	1	名取ノ老女	熊野三山を深く信仰し、毎年詣でしていた女性が年老いて詣でることがなくなってきたため、名取の里に熊野三山を勧請し、礼祭を欠かさなかったとの伝説が基となっています。全国に3,000社を超える熊野ゆかりの神社の中でも、名取熊野三社は、三社を合祀せずにそれぞれが独立して奉られているほか、紀伊熊野三山の地理的・方角的な環境に似せて勧請している全国でも珍しい神社です。
問32	3	美里町	美里町小牛田の北浦地区は、昔から梨栽培が盛んで、栽培されている梨は「北浦梨」の愛称で親しまれています。
問33	1	日高見(ひたかみ)の国ブランド	石巻地域は、昔、日昇る土地「日高見の国」といわれていました。「日高見の国」ブランドは海外展示会や商談会に積極的に参加して輸出実績を伸ばしており、さらなる知名度やブランド価値の向上が期待されます。
問34	1	遮光器土偶	恵比須田遺跡で出土した遮光器土偶は、ほぼ完全な形が残る希少なもので、現在は、東京国立博物館に所蔵されています。大崎市田尻の「公園の中の宿ロマン館」には等身大のレプリカが展示されています。
問35	2	火の見櫓	現代では、警察署と消防署は独立した組織ですが、警察資料館にある「火の見櫓」は大正15年に建設されており、当時、消防が警察行政と一体であったという、警察・消防の歴史的な位置付けを示す建造物です。
問36	—	百済	百済王敬福(くだらのこにきしきょうふく)は聖武天皇発願の大仏建立にあたり、天平21年(749年)黄金山から産出した黄金900両(13キログラム)を献じました。百済の技術者達は、黄金山付近の地形などが自国の産金地とよく似ていることに注目し、見事に金を探し当てたといわれています。
問37	—	③→①→②→④	宮城県は米どころとして知られていますが、畜産も盛んで、品質の良さで全国に誇れる「仙台牛」や「宮城野豚」などを生産しています。 平成26年度農業産出額 畜産:690億円、米:602億円、野菜:245億円
問38	—	不老仙館	「不老仙館」という名称は、最初に建てられた狼河原(おいのがわら)村(現米川地区)に由来し、同村は「おいぬがわら」とも呼ばれていたことから、「おいぬ」に「不老」の字を当てて名付けられました。書院造りの建物には、武者隠しの部屋が残されており、著名人の書画や骨董品なども展示されています。

問39	—	1—大砲万右衛門 2—谷風梶ノ助 3—秀ノ山雷五郎 4—丸山権太左衛門	1. 第18代横綱大砲万右衛門(1869-1918):現在の白石市大鷹沢の出身。銅像は白石城二の丸跡、益岡公園内にあります。 2. 第4代横綱谷風梶之助(2代目)(1750-1795):現在の仙台市若林区の霞目出身。銅像は勾当台公園にあります。 3. 第9代横綱秀ノ山雷五郎(1808-1862):現在の気仙沼市出身。銅像は岩井崎にあります。 4. 第3代横綱丸山権太左衛門(1713-1749):現在の登米市米山中津山出身。銅像は道の駅米山にあります。
問40	—	花淵山	花淵山バイパスは花淵山の下を通るトンネルが主体のバイパスです。このバイパスの完成により、災害に強く安全安心な交通が確保され、宮城県、秋田県両県の連携強化と交流促進、地域の産業経済の活性化や観光振興が期待されています。
問41	—	しもふりレッド	しもふりレッドは、県の畜産試験場が8年間の年月をかけて改良したデュロック純粋種豚です。通常の豚肉より霜降りのサシが多く入り、ジューシーな味わいが特徴です。また、県内では「しもふりレッド」と他の品種を交配し生産された豚肉「宮城野豚(ミヤギノポーク)」も広く流通しています。
問42	—	①→②→③→④	船形山が1,500メートル、栗駒山が1,627メートル、刈田岳が1,758メートル、屏風岳は1,825メートルです。ちなみに、県内一低い山(国土地理院認定)は仙台市宮城野区にある日和山(平成26年時点)です。標高は3メートルで、日本一低い山でもあります。
問43	—	遠	「遠の朝廷」とは、都から遠く離れた主要な地方の役所を指します。そのうち、多賀城は古代に陸奥国を治めた城・役所でした。中心である政庁跡は、重要な儀式や政務が行われた場所と考えられています。
問44	—	石巻市	1枚目・モリウミアス:石巻市雄勝町にある、こどもが滞在しながら、自然の中での多種多様な交流を通じて様々なことを学ぶことができる複合型体験施設です。 2枚目・釣石神社:石巻市北上町にある、巨石が御神体の神社。落ちそうで落ちない石として、受験の神様としても知られています。 3枚目・金華山:牡鹿半島の沖合にある島で、東奥の三大霊場(恐山・出羽三山・金華山)として修験者が修行を積んだ場所でもあります。
問45	—	シカ(しか・鹿も可)	県花は昭和30年、県鳥と県獣は昭和40年、県木は昭和41年にそれぞれ指定されました。本県に生息するシカは、ホンシュウシカの代表的なもので、金華山や牡鹿半島などに生息しています。
問46	—	重村	「殿、利息でござる!」は、相次ぐ飢饉と重い年貢に苦しんでいた藩政期の吉岡宿(現在の大和町)において、仙台藩に大金を貸し付けてその利息で町を救おうとした人たちの史実を基にした映画です。
問47	—	宮戸島	東松島市にある宮戸島は砂州で繋がっている陸繋島です。島には松島四大観の「壮観」といわれる大高森があり、山頂からは360度の大パノラマを楽しむことができます。さらに、島の東南には奇岩の風景「嵯峨溪」があり、遊覧船が運航されています。
問48	—	ミヤギシロメ	ミヤギシロメは県の奨励品種の一つで、粒が大きく、ほんのりとした甘味が特徴の大豆です。県内ではほかにも、タンレイ、きぬさやかなどの品種も栽培されています。
問49	—	①高橋(高橋)②松友	タカマツペアの愛称で知られる高橋礼華選手・松友美佐紀選手は、平成19年に聖ウルスラ学院英智高等学校で初めてペアを組みました。平成28年12月現在、女子ダブルスで世界ランキング第1位。今後も活躍が期待されます。

問50



正解は、蔵王町です。
真田幸村は大坂夏の陣で、壮絶な最期を迎えます。経緯は諸説ありますが、敵方であったにも関わらず、片倉重綱は長女・阿梅や次男・大八ら幸村の子女を保護しています。阿梅はその後重綱の後妻となり、夫を支えます。大八(片倉守信)の息子は真田姓を名乗ることを許され、仙台真田氏として今日まで続いています。